

# No. 1096

## 鏡 開 き

東京都・文京区にある柔道のメッカ、講道館では1月12日恒例の“鏡開き”が行なわれました。高段者による柔道のいろいろな形が披露され、中でも護身術は人々の注目をひきました。門下生による乱取り、チビっ子たちも明日の黒帯をめざして頑張っています。青い目の女三四郎もいます。初稽古が終るといよいよ汁粉会、600人分もの汁粉作りとあって裏方さんは大忙しです。甘い汁粉に舌つゞみする子供たちに比べ、親日家の外人さんもオモチはちょっとばかり勝手がちがう様子。「モチのようにねばり強く」を合言葉に盛大な鏡開きは終わりました。

## 再 生 屋 大 繁 盛

“ご家庭の奥さま、節約時代です。直せば使えるものは直しませんか……”

包丁やなべ、かま、くつやかさなど日用品ならなんでも直しますと、再生修理屋さんが団地をまわる。

“修理ありませんか、かさの骨ですね、直ります” “くつなんです、うらを取りかえれば直ります。大丈夫ですよ”

消費時代の到来で包丁のときやさんや、いかげやさんが町からその姿をほとんど消した。

そして家庭の日用品は直せば使えるものまでもどんどん捨てられ新しく買いかえられていった。

そんな世の中に物を大切にしようと、3年前に全国節約振興会をつくり、日用品の修理再生をはじめた田崎さんは、“私は小さい時から物を大切にしようきびしくしつけられてきた。使い捨てるの風潮に腹が立っていた。それで思いたったのが日用品の再生だった……”

不況の倒来で節約が呼びかけられ今はひっぱりだこ。各地のリサイクルフェアなどからお呼びがかかる。家庭の片隅に忘れられていたくつやかさなどが持ち込まれ、てんてこまいの忙しさ。北海道から沖縄までチェーン組織がつくられ今500人の仲間が1日10万点にも及ぶ日用品に新たな生命をよみがえさせる。この春からは家の修理もてがける計画だという。

列島総再生をめざして今日も、再生屋さんは日本をかけめぐる。